



# 令和4年度 認定看護師教育課程 開講式



令和4年4月6日(水)午前10時から,大学大講義室において,令和4年度専任教員養成講座・認定看護師教育課程合同開講式が執り行われ,吉良課程長より受講生(16期生)20名が紹介されました。



松村学長からの式辞に続いて,受講生からは,田中友希さんが代表挨拶を行いました。



## 受講生代表挨拶



医療法人財団明理会  
春日部中央総合病院  
田中 友希

春の暖かい光が感じられるこの良き日に、私達「摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程」令和4年度受講生のために、このような式を催して頂き、誠にありがとうございます。学長、課程長をはじめ、諸先生方に心より御礼申し上げます。

私達20名は、これから「摂食嚥下障害看護」という領域で、患者の「食べたい」という希望に寄り添い、生活の質の向上に繋がる看護を提供できるよう、本教育課程で仲間と共に学んでいくことへの期待で満ち溢れています。

さて現在日本では、高齢化の進行や疾病構造の変化に伴い、摂食嚥下障害が大きな問題となっています。その中で多様なニーズに対応するためには高度な専門知識や技術が求められていることと思います。また、口から食べる事は生命維持の手段だけではなく、楽しみや喜びになり、生きる活力になります。さらに、食事は周囲とのコミュニケーション場面でもあり、楽しい思い出やその人の人生にも繋がり、生活の質に大きく関わっていきます。

このような状況の中で、茨城県立医療大学の理念のもと、課程長はじめ諸先生方のご協力を得て、水準の高い看護実践を提供できるよう、常に自ら学ぶ姿勢を維持し、精進してまいります。

私達は今、スタートラインに立ち緊張と不安を感じていますが、ここで出会った仲間達と共にお互い切磋琢磨しながら、これから1年間摂食嚥下障害看護のスペシャリストとなるために、初心を忘れず日々学業に邁進していきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

